

## 論文要旨

氏名	久保田 有香
<p><b>論文の要旨</b></p> <p><b>背景:</b> 舌痛症は舌に器質的変化がないにも関わらず舌の痛みを訴える病態の総称とされ、更年期の女性、高齢者および身体の免疫力低下者において発症しやすいとされている。平成 17 年から平成 22 年の九州歯科大学高齢者歯科(現、口腔環境科)における患者動態に関する調査において、来院患者の 47%が舌痛を、34%が口腔乾燥感を訴えていた(複数回答)[参考論文 1]。また、同調査では、65 歳以上が 61%で、高齢者で悩んでいるものが多いことがわかった。そのうち 97% が他医療機関を受診し、93%が常用薬の服用をしており、口腔内所見として舌診の口腔診査の結果において 33%に胖大舌、24%に歯痕が認められた。本結果によって、一般に口腔心身症として広く対応されている舌痛症だが、心身症の要因以外による影響もあるのではと推察できた。</p> <p>そこで、口腔環境、生活環境などの項目を含む独自の質問調査票を作成し、調査を実施すると舌痛症と全身状態、口腔環境および生活環境の間に関係性が示唆され、特に舌尖部舌痛において下顎前歯部切縁との接触、特に歯冠形態としての鋭利度が関与している可能性がわかった[参考論文 2]。</p> <p>今回、病因を検討する目的で、舌尖部舌痛症を主訴に来院した高齢者の下顎前歯部切縁形態に注目し舌痛症との関係に関する検討を行うこととした。</p> <p><b>目的:</b> 高齢者の舌尖部舌痛症において、下顎前歯部の形態、口腔乾燥の状態および生活環境などとの関連性を明らかにするために研究を行った。</p> <p><b>対象:</b> 九州歯科大学附属病院の外来高齢患者 30 人を対象とし、その内訳は、初診時に舌尖部舌痛を訴えた高齢患者、および舌痛のない高齢患者の各 15 人とした。</p> <p><b>方法:</b> 対象者に独自に作成した 43 項目からなる自記式調査票を用いたアンケート調査を行った。</p> <p>次に口腔乾燥状態などの口腔内診査や舌粘膜への物理的刺激になっていると思われる下顎前歯部の舌側切縁形態に注目し鋭利度の測定のほか、解剖学的評価ならびに口腔環境に関する測定を行った。それぞれの結果を舌尖部舌痛のある群とない群で比較した。</p> <p><b>結果:</b> 舌尖部舌痛のある群で精神安定剤の服用、前傾姿勢になりやすい、舌背部粘膜の唾液湿潤度が低い、および下顎前歯部舌側切縁部の鋭利度が高いなどとの間に有意(<math>p &lt; 0.05</math>)な関係が認められた。</p> <p><b>まとめ:</b> 一般に口腔心身症として対応されている高齢者の舌痛症の発症リスク因子について、服薬状況、口腔環境、生活環境なども影響していることが示唆された。</p>	

